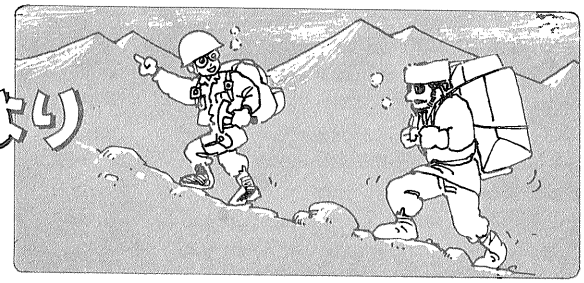
海外室だより



No. 29

ベトナム地質鉱物資源研究所訪問団来所

ベトナム社会主義共和国（SRV）の鉱山地質省に属するベトナム地質鉱物資源研究所（Research Institute of Geology and Mineral Resources of Vietnam, RIGMR, ハノイ）の一行4名が UNDP 基金による日本への3週間のスタディ・ツアーを組み 9月2日（水）～4日（金）と10日（木）に来所した. 来訪者は次の4名である.

Dr. Nguyen Khac Vinh　所長
Dr. Nguyen Van Ngoan　鉱物課長
Mr. Duong Minh Duc　地質分析部次長
Mr. Nguyen Tuong Tri　支所長

UNDP基金による研修の目的は "geoscience management" の分野で 日本の他にフランス（3名） ソ連（2名） オランダ（1名）への研修員とインドネシア（1名）へのスタディ・ツアーがほぼ同時に行われている. 地質調査所における対応は 次の通りである.

9月2日（水）午後 所長表敬と地質標本館見学.
9月3日（木）午前 小野環境地質部長による大島三原山噴火のビデオ紹介と同部の研究内容説明. 午後 筑波大学佐藤正教授研究室訪問. 五十嵐鉱床部長ならびに富樫主研による鉱床関係の研究業務の説明.
9月4日（金）午前 白波瀬資料室長による出版物発行状況の紹介. 小川地殻熱部長による同部研究内容の説明. 服部地質部長からの地質図作成に関する紹介. 午後 燃料部の藤井課長による石炭地質についての説明.

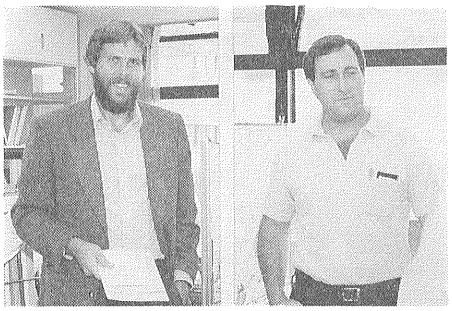
上記両日に加えて ベトナム訪問団の強い要望により 9月10日（木）の再訪を受入れた. 同日の午前には 花岡地質情報解析室長ならびに中井物理探査部長と中塚課長からの研究内容説明が また 午後には服部地質部長による共同利用実験室見学 技術部の桑形特殊技術課長による岩石・鉱物の薄片作製の見学及び安藤化学課長と柴田地球化学課長による地球化学関係実験室の見学が行われた.

このようにして ベトナムからの来所ミッションは当所の組織ならびに施設に関するあらゆる情報を極めて精力的に入手して帰国した. 当方からは ベトナムの RIGMR の組織と活動について説明を求め ベトナムの Council Ministers（総理府）の下部組織として General Department of Mines and Geology（GDMC）があり RIGMR はこの「省」に属すること この「省」が農林その他の「省」と同列に並ぶこと GDMG に属する関連機関として RIGMR の他に Geological Division があることなど新体勢下におけるベトナム政府機構の一端を伺い知ることができた. RIGMR の組織については 総務部の他に地質 鉱床 地球化学 地球物理 水理地質 鉱山工学 分析学の各研究部 それに図書室と情報室とが併設されており 総員約700名で 研究員は 約500名であることが紹介された. 後日改めて組織等の印刷物が送られてくることになっている. （倉沢）

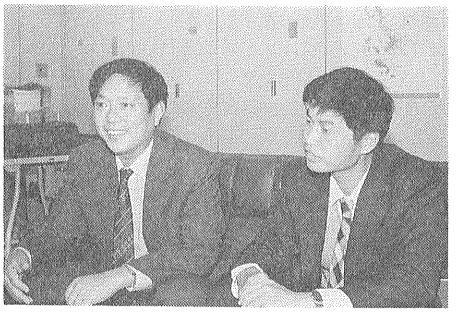
ベトナム RIGMR 一行
前列左から Duc, Tri, Vinh, Ngoan の各氏

招へい研究員あれこれ

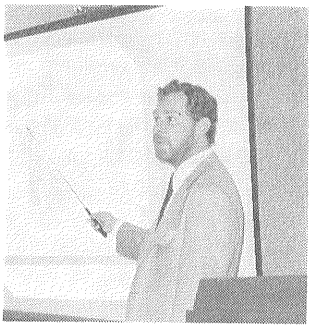
昭和62年度に招へい予定の研究員のうち これまでに



ボドヴァソンさん（左）とクランツさん



李さん（左）と呉さん



シンガーさん

5名の人達が来所しています．　それぞれの研究テーマなどを到着順に紹介しておきましょう．

第1号は米国地質調査所のシンガー博士（Donald A. Singer）で　日本産業技術振興協会（JITA）の経費により9月1日から30日まで滞在しました．　研究課題は「鉱物資源の定量的評価法」で　鉱床部の古宇田亮一技官らと共に　本邦金鉱床の鉱化作用に関する研究に従事しました．　シンガーさんの来所は今度で4回目　当所員ともすっかり顔馴染みで　研究以外の交流も活発だったようです．　滞在期間中　北海道　佐渡　京都へ出かけましたが　何処へ行っても好天に恵まれ　佐渡では探鉱ボーリングが着脈するというおまけまでつき　大いに気を良くして帰国しました．

シンガーさんと入れ替わるように　10月1日には中国から2名の研究員が到着しました．　ITIT 事業「石炭生成環境」のカウンターパートで　中国地質大学（旧武漢地質学院）の李思田教授（Li Sitian）と呉沖竜副教授（Wu Chonglong）です．　燃料部の鈴木祐一郎技官が8月16日から9月9日まで同プロジェクトの在外研究で訪中しており　招へいはスムーズに運びました．　同技官らと共に　北海道　房総　静岡　常磐と日本の代表的な石炭鉱床とその胚胎層準を精力的に見て廻り　両国の石炭生成環境の比較研究のために多くの知見を得ています．
李さんは同プロジェクトの中国側リーダーで　同プロ開始直前の昨年3月にも　事前協議のため来所しています．　カナダ滞在の経験もあり　にこやかで話好きな国際派です．　呉さんは無口（ロシア語党のせいかもしれません）で物静か．写真に見られるように　体型的にも誠に対照的な組合せといえましょう．
11月14日まで滞在しました．

10月18日には米国から2名の研究員を迎えました．1人はカリフォルニア大学ローレンス・バークレイ研究所（LBL）のボドヴァソン博士（Gudmundur S. Bodvarsson）もう1人はロス・アラモス国立研究所（LANL）のクランツ博士（Robert L. Kranz）です．　両研究所ともに当所との関係は深く　現在　LBL とは深部地熱資源評価技術に関する研究（サンシャイン特研）LANL とは高レベル放射性廃棄物の深層隔離に関する研究（原子力特研）での協力が進められています．

ボドヴァソンさんは工業技術院流動研究員制度による来所で　矢野雄策技官らと共に地殻熱部において　「地熱貯留層評価法の研究」を行いました．　10月25日までの短期間でしたが　充実した協力関係が築かれました．

クランツさんはシンガーさんと同じ JITA の経費により　「高レベル放射性廃棄物処分サイトの核種包蔵性評価の研究」のための来所です．　受入れは環境地質部の楠瀬勤一郎技官．　同技官は昨年4月から半年間　招へい研究員として LANL に滞在しており　今回はそのお返しということになります．　初来日だそうですので　研究以外にも　日本の風物を楽しんでくれることでしょう．
11月26日まで滞在の予定です．　（遠藤）